

「伊豆市の新しい都市計画」に係る最終提言

Compact Towns Izu City

都市（まち）－農山漁村（むら）－自然の調和



平成28年1月15日

伊豆市の新しい都市計画検討委員会

座長 柳沢 厚

伊豆市では、旧修善寺町において、昭和46年に田方広域都市計画区域、昭和51年に区域区分が指定され、その後、土地区画整理事業、下水道事業などの都市基盤整備が進められてきました。

平成16年に旧修善寺町、旧土肥町、旧天城湯ヶ島町、旧中伊豆町の4町が合併し現在の市域となりました。広大な市全域には、雄大な天城連山、狩野川の清流、駿河湾越しの夕日、情緒ある修善寺温泉などの自然や格調高い歴史・文学が、宝石のように散りばめられています。近年は、世界ジオパーク認定へ向けた動き、東京オリンピック大会（自転車競技）開催決定、伊豆縦貫自動車道の整備進展による伊豆半島のクロスロードとしての優位性など、多くの可能性を有しています。

しかし、合併後10年を経ても都市計画区域や区域区分、都市施設等の見直しが行われておらず、伊豆市としての一体的なまちづくりを進める上で課題が生じています。

伊豆市の新しい都市計画検討委員会では、高齢化や人口減少の加速などの喫緊の課題をふまえつつも、地域の魅力を活かした明るい未来を切り拓くまちづくりのために、都市計画はどうあるべきか2年間議論してきました。ここに最終提言として報告します。

記

1 市のあるべき将来像（「伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク構想」の実現）

広大な山間地の河川沿いに形成されてきた集落の自然の恵み豊かな暮らしの維持と、伊豆の表玄関である修善寺駅周辺の市街地の都市的空間の創出により、都市（まち）と農山漁村（むら）が補完し合いながら輝きを増し、市民と来訪者の双方にとって快適かつ魅力的で、市民が故郷に誇りを持てるまちを目指すべきである。

- (1) 旧土肥町、旧天城湯ヶ島町、旧中伊豆町など周辺部においては、既存の公共施設周辺における日常生活機能の確保と高付加価値化を進め、市民と来訪者等が交流でき、故郷に住み続けられる暮らしを維持する。
- (2) 市街地では、中心部に主要な都市機能が集積した、歩いて楽しい高質で快適な都市を創造する。
- (3) 周辺部の拠点と市街地中心部を、公共交通、道路、情報、生活サービスをはじめとした多様かつ多層的なネットワークで結び、いつまでも安心して住み続けるためのまちの骨格を構築する。

2 実現に向けた取組みの方向性について

上記の将来像実現のため、次の基本方針を基に、先導的な取組みを実施すべきである。

- (1) 産業や観光の振興、地域コミュニティ活性化、まちの賑わいづくりなど、住民と力を合わせ、既存の公共施設を有効活用し、地域の魅力を引き出す多様な施策を展開する。
- (2) 身近な公園・広場の整備、日常生活の拠点形成、新たな住まいの確保など、最適な配置について検討の上、効率的かつ効果的な手法により整備する。
- (3) 東京五輪に伴う交通基盤整備を活かし、伊豆縦貫自動車道を背骨とする広域交通網（アクセス道路）の構築を市の将来を見据えて進めるとともに、新しい公共交通体系や暮らしを支えるネットワークを実現する。

3 措置すべき新しい都市計画及び関連施策

上記の取組みを実施するためには、次のとおり、都市計画の転換等を推進すべきである。

- (1) 伊豆市の地域特性を踏まえた施策を展開するために、広域都市計画を見直し、基礎自治体をベースにした独自の都市計画区域の設定を目指す。また、一体的な土地利用制度のもと施策を効果的にプランニングするとともに、集落における生活空間の安全性や空間の質を確保し、温泉や農林水産物をはじめとした多様な地域資源をまちづくりに取り入れるため、市域全域を都市計画区域に指定する。
- (2) 平地が少なく山あいの土地が大部分を占める地形特性や自然災害などの危険性を踏まえ、区域区分に替わる、きめ細かく柔軟な土地利用の規制・誘導を図る手段として、特定用途制限地域の指定や自主条例の制定を進める。
- (3) 伊豆市の魅力の源泉である美しく貴重な自然環境や眺望が、予期しない行為等により喪失することを事前に防ぐため、各種都市計画制度の活用や実効性の高い景観条例の制定等により、積極的な保全措置を講ずる。

伊豆市の新しい都市計画検討委員会 経緯

第1回検討委員会	平成26年 6月 6日
第2回検討委員会	平成26年 10月 3日
第3回検討委員会	平成27年 2月 4日
第4回検討委員会	平成27年 6月 17日
第5回検討委員会	平成27年 10月 9日
第6回検討委員会	平成28年 1月 15日

(上記以外の取組み)

- ・平成26年11月28日～30日 千葉大学大学院生による各種プロジェクト案の検討・提案
- ・平成26年12月15日～16日 委員による下田市コンパクトシティの現地調査
- ・その他、随時事務局から委員へのヒアリングを実施

伊豆市の新しい都市計画検討委員会 委員名簿

C-まち計画室 代表	柳沢 厚	座長
千葉大学大学院 園芸学研究科 准教授	秋田 典子	
NPO 法人くらしまち継承機構 理事長	伊藤 光造	副座長
東洋大学 国際地域学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	
一般財団法人 農村開発企画委員会 特任研究員	楠本 侑司	
静岡県 交通基盤部 都市局 都市計画課長	白鳥 正彦	
静岡県 交通基盤部 農地局 農地計画課長	松本 智加良	
静岡県 交通基盤部 農地局 農地利用課長	糟屋 和良	
伊豆市 市長政策監兼総合政策部長	和智永 康弘	
伊豆市 総務部長	伊郷 伸之	
伊豆市 産業部長	鈴木 薫	
伊豆市 建設部長	齋藤 満	
国土交通省 都市局 都市計画課 土地利用調整官	今村 敬	オブザーバー
国土交通省 都市局 都市計画課 施設計画調整官	鎌田 秀一	オブザーバー
国土交通省 都市局 都市計画課 環境計画調整官	井村 久行	オブザーバー
国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課長	間宮 敏博	オブザーバー

(平成28年1月15日現在)

事務局

伊豆市建設部都市計画課
 公益財団法人 都市計画協会
 株式会社 都市環境研究所